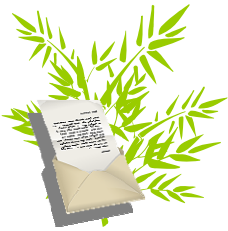


『ぱんだより』

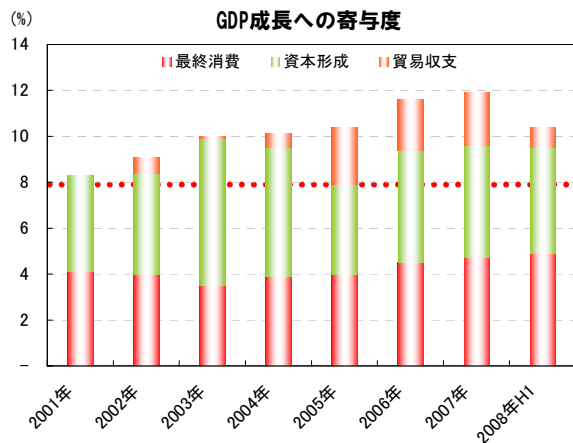
※パンダからのお便りという意味で「ぱんだより」と名付けました。
 スパークスのアジア地域における情報発信レポート

第17号(2008年10月27日)「中国市場動向2008年9月」



8%経済成長を死守する理由

中国の経済成長率は、今年第1四半期の10.6%から、第2四半期は10.1%、第3四半期は9.0%と減速しています。欧米経済の減速が、中国の実体経済にも影響を及ぼしはじめ、1~9月の中国の経済成長率に対する対外貿易の寄与度は前年同期の約半分、1.2%に低下しています。来年、海外経済がさらに落ち込めば、対外貿易の縮小だけにとどまらず、中国经济全体、ひいては株式市場、不動産市場、そして消費意欲の低下へとつながり、政府としてこだわる最低ラインの成長率8%も危ぶまれます。



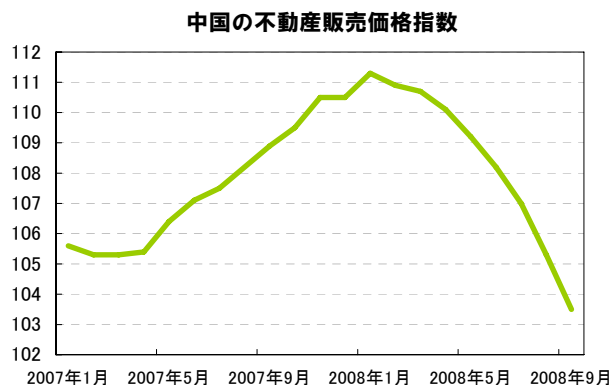
出所: 国家統計局、WIND、CICC、2008年10月

GDP成長率8%超の維持に政府がこだわる理由は、成長率8%を下回った場合、新規雇用が1,000万人以下に落ち込み、毎年農村から都市部へ移動する労働人口を吸収しきれず、失業率が上昇し、社会不安につながりかねないからです。そのうえ景気低迷で既存企業の倒産、破綻が増えれば、失業率はさらに悪化します。9月の消費者物価指数(CPI)の上昇率は4.6%と、2ヶ月連続で低下し、物価上昇圧力が大幅に低下する中、政府は、景気対策、経済成長の維持に全力を傾けています。

不動産市場にテコ入れ

不動産価格の急落、銀行の貸し渋りなど、中国本土の不動産企業の状況は極めて深刻です。不動産バブルの崩壊を睨んで、鉄鋼、セメント、アルミなどの素材価格は軒並み下落し、個人消費にも陰りが出てきております。

低迷が続く不動産市場へのテコ入れのため、中央政府は住宅購入の際の頭金比率の引き下げ、住宅ローン金利の正常化、不動産取引税の引き下げを実施しました。これらの一連の政策は、国民の不動産購買力の向上、また負担軽減を狙ったものです。



出所: 国家統計局、WIND、2008年10月22日



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。



『ぱんだより』

スパークスのアジア地域における情報発信レポート



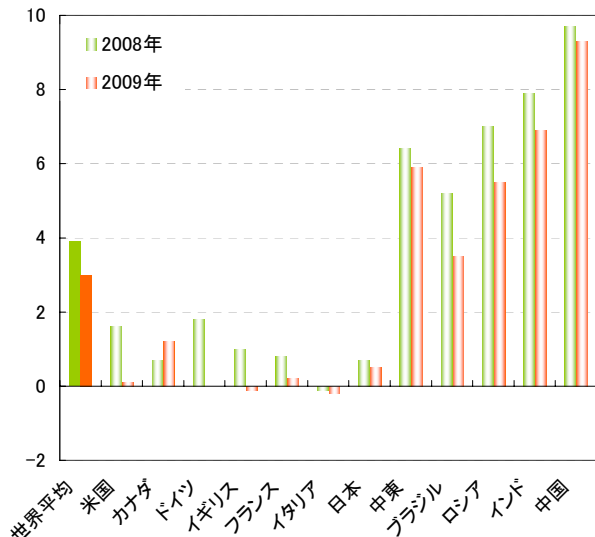
GDP世界三位は目前

中国のGDPがいつドイツのGDPを抜くかは、この数年中国で話題になっています。2007年、中国のGDPは3兆2800億ドル、ドイツは3兆2970億ドルと、その差はわずかでした。過去1、2年、中国経済が急速な成長をしたにもかかわらずドイツを抜けなかったのは、ドイツ経済が想定以上に良好だったことが理由です。

しかし、ここに来て、世界規模の金融危機が深刻化するなか、ドイツの経済成長も大きくダメージを受けています。ドイツ連邦政府の予測では、今年のドイツのGDP成長率は1.7%とのもので、この数値はやや楽観的過ぎるとの見方もあります。

一方、中国の今年のGDP成長率は9%台を維持すると予想されており、予想通りとなればドイツを上回り、GDP世界三位となります。

(%) 世界経済成長見通し



出所: 国際通貨基金、2008年10月

《主要株価推移》(各市場の直近1年間)



出所: ブルームバーグ

【編集後記】今日、誕生日を迎えた私に、上司がToshiYoroizukaのケーキを買ってきてくれました。外交の後にわざわざ恵比寿に寄ってくれたようです。最近の相場動向に落胆していたのですが、さっそく景気(ケーキ)づけにいただきました。勢いが出るいいのですが。



(知恵越え悟る&見に行っちゃイナ)



本資料は、スパークス・アセット・マネジメントが情報提供のみを目的として作成したものであり、金融商品取引法に基づく開示書類ではありません。また特定の有価証券の取引を勧誘する目的で提供されるものではありません。スパークス・アセット・マネジメントとその関連会社は、本資料に含まれた数値、情報、意見、その他の記述の正確性、完全性、妥当性等を保証するものではなく、当該数値、情報、意見、その他の記述を使用した、またはこれらに依拠したことに基づく損害、損失または結果についてもなんら補償するものではありません。ここに記載された内容は、資料作成時点のものであり、今後予告することなしに変更されることもあります。また、過去の実績に関する数値等は、将来の結果をお約束するものではありません。この資料の著作権はスパークス・アセット・マネジメントに属し、その目的を問わず書面による承諾を得ることなく引用または複製することを禁じます。